

# 施策評価（令和2年度）

施策評価調書
--------

基本政策4 ICTによる便利な暮らしの実現と地域の活性化			
施策(2) ICT利活用による地域の活性化			
幹事部局名	企画振興部	担当課名	情報企画課
評価者	企画振興部長	評価確定日	令和2年8月25日

## 1 施策のねらい（施策の目的）

県、市町村、関係団体、大学等が連携してICTの利活用分野を検討し、ICTの利活用で地域課題の解決を行うほか、医療や福祉などの県民に身近な分野におけるICTの利活用を推進し、地域活性化に貢献します。

## 2 施策の状況

### 2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	施策の方向性(1)	
							R3 (H33)	備考
実施されたICTを用いた地域活性化事業数(累積)(件)	目標			1	2	2	3	
	実績	0	2	3	6			
	達成率			300.0%	300.0%			
出典:県情報企画課調べ	指標の判定			a	a			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-		
		東北	-	-	-	-		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT等の先進技術の利活用の促進等を目的として、県内の団体、企業、大学、自治体等により設立された「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」において、ICTを用いた地域の活性化事業等に関する様々な取組を行っており、県は、当該事業への助言等の支援を行っている。</li> <li>コンソーシアムの会員数は年々増加し、活動も活発化しており、県が支援する事業数も増加している。</li> </ul>							

#### ※ 指標の判定基準

「a」：達成率 $\geq$ 100% 「b」：100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 「c」：90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

### 2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) ICTによる地域課題解決と事業化支援【情報企画課、デジタルイノベーション戦略室】	指標	代表①
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」において、セミナー（6回△1回）及び技術研修会（2回△5回）を開催した。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、セミナー1回及び技術研修会2回の開催を令和2年度に延期している。</li> <li>・次の地域活性化事業に対し支援を行った。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①キャッシュレス化とWi-Fiの展開に向け、NTT東日本やJR東日本と連携し、仙北市等において、観光地や列車内における観光者向けWi-Fi環境を提供するとともに、キャッシュレス決済サービスやAR・VR技術を利用した観光案内サービス等の実証を行った（平成31年4月）。</li> <li>②介護予防を目的として導入される「フレイル健診」について、県内企業のアルファシステムを中心にIoTや医療センサを使ったシステム開発を進めた。また、高齢者向けビジネスのコンサルティングに特化した県内企業のALL-ALLの協力のもと、被験者を募り、フレイル健診サービスの実証を行った（令和元年10月～令和2年2月）。</li> <li>③国際教養大を中心に、新潟通信機や秋田中央交通による協力のもと、国際教養大学の学生・職員を主な対象として、駅～キャンパスを往復する公共バス（秋田中央交通国際教養大学線）の運行状況の検索の実証実験を行った。本実証実験では、バスに搭載した通信機により得られたリアルタイム運行情報（バスの位置、遅延・到着予定時間）を利用者に提供した（令和2年1～3月）。</li> </ul> </li> <li>・県内25市町村を訪問し地域課題についてヒアリングを行い、課題の掘り起こし（具体化）と先進技術の活用について意見交換を行った。</li> </ul>		

(2) 身近な分野におけるICT利活用の促進【情報企画課、デジタルイノベーション戦略室】	指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内企業や自治体が抱える課題の解決の参考となる場の提供、県民の先進技術に関する理解促進等を目的として、「秋田ICTフェア2019」をアルヴェで開催し、ICT関連企業や大学など31団体が先進技術を用いた製品やサービス、研究成果等を出展した。また、開催主旨が一致したことから、NTTドコモが同会場において、民間企業、地方公共団体職員向けに「地方創生セミナー」を同時開催し、Society5.0に関する基調講演や5Gに関する特別講演のほか、情報技術に関するセミナーを行った。同時開催の効果もあり、一般来客者を含め2日間で延べ1,500人の来場があった。</li> <li>・「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」は、秋田の地域課題に対する県内の産学官連携の取組事例や研究成果の紹介、さらに県内企業の活動について県内外の理工系学生が理解を深める場を提供することを目的とし、2019年度電気関係学会東北支部連合大会（秋田大学で開催）において、企画セッション「秋田の地域課題とICT活用」を共催した。セッションでは、労働力不足の解消、介護分野や農業分野へのICT利活用に関連する研究など11件の発表と、産学官各分野の専門家によるパネルディスカッションが行われた。</li> </ul>		

### 3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 代表指標の達成状況については、①「実施されたICTを用いた地域活性化事業数」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。</li> <li>■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。</li> </ul>

- 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。  
「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない  
「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む
- 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。
- 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

## 5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	○ 各自治体が抱える地域課題についてヒアリングを実施したが、具体的な課題の提案まで至らないのが現状である。	○ 継続的に市町村へのヒアリングを行い、各市町村が抱える課題の具体化に向けた支援を行うとともに、課題解決に向けたICT活用事例等を紹介する。
(2)	○ ICT技術の進歩が速いため、県民の生活に身近な分野でどのようなICT技術が利用できるのか、時機を逸することなく広く普及啓発を進めることが難しい。	○ 「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」を通じて、県内ICT企業の技術を紹介し、関係団体の取組を促進するとともに、「秋田ICTフェア」等の一般向けのイベントを通じて、県民の先進技術に関する理解の促進を図る。

## 6 政策評価委員会の意見

自己評価の「A」をもって妥当とする。
--------------------